

報道関係者各位

ITの「生活・暮らし」への影響に関する調査報告 ～デジタルネイティブ世代のIT活用実態と意識～

(一財) 国際IT財団(代表理事・澤田潤一)では、10～69歳のスマートフォン利用者を対象に、ソーシャルメディアの利用状況や意識について調査を行い(回答者数1,067人)、「デジタルネイティブ世代」と呼ばれる10代(1995年生まれ以降)を中心に分析を行った。

【調査結果の主なポイント】

- 1. 10代の7割は、長時間使い過ぎと自覚しながらもスマートフォンに夢中(図1～4)**
 - スマートフォンは日常生活に不可欠なツールで「当たり前なもの」として定着している。
 - 10代の4割は、スマートフォンの利用自体を「楽しい」と感じている。他の世代と比べて利用時間も長い。一方、利用時間を捻出するため「睡眠時間」や「勉強時間」を削っており、7割が長時間使い過ぎていることに後ろめたさを感じている。
- 2. ソーシャルメディアを通じて、見知らぬ人と「繋がる」ことに警戒感(図5～6)**
 - デジタルネイティブ世代の若者は、ソーシャルメディアの特性を理解し、概ね慎重に利用している。
 - 特徴として10代前半層は他の世代と比べて、スマートフォンやソーシャルメディアを使うことについてデメリット感を持つ割合が高い。ソーシャルメディアを通じて、見知らぬ人と「繋がる」ことをデメリットとする回答は、10代前半層で5割に達する。
- 3. 「30代」の2割が、情報の信頼性を確かめずにリツイート(図7～9)**
 - 全体の3割が、サイト上の情報の信頼性について「情報発信元を意識したことはない」。10代では4割に達する。
 - Twitterでリツイートする際、30代の2割が「深く考えないでリツイートする」「半信半疑でもリツイートする」としている。ソーシャルメディアを利用する際、他人の情報を勝手に載せない等の注意やマナーを「知らない」という回答も30代、40代に多い。
- 4. 義務教育での「プログラミング教育」、10代・20代を中心に5割超が賛成(図10)**
 - 小学校の義務教育へのプログラミング教育導入について、「賛成」とする意見は5割を占める。特に10代、20代で賛成とする意見が多い。

【調査概要】

- (1) 調査手法: Webアンケート
- (2) 実施時期: 2014年9月4日(木)～9日(火)
- (3) 調査対象: 全国のスマートフォン利用者
(10代は保護者同伴で回答)
- (4) 調査協力: 角川アスキー総合研究所
- (5) 有効回答数: 1,067件

【日本のITリテラシー向上研究会 構成】

- 金丸恭文 フューチャー・キョウト 代表取締役会長兼社長(委員長)
宮川 努 学習院大学 経済学部 教授(主査)
稲増文夫 KDDI 総研 調査2部長
今村俊一 フューチャー・キョウト アドバンスド・ビジネズ本部ディレクター
木内康裕 日本生産性本部 生産性総合研究センター 主幹研究員
齋藤幹子 ウシオ電機 秘書室
篠崎彰彦 九州大学大学院 経済学研究院 教授
幸重孝典 全日本空輸 上席執行役員

【連絡先】(一財)国際IT財団 事務局(田邊、徳武)

Tel:03-3409-2653 Fax:03-3409-2654 Mail:info-ifit@ifit.or.jp

http://www.ifit.or.jp 詳細に関しましては左記URLに掲載の報告書をご覧ください。